

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Trichoblastoma is the most common neoplasm developed in nevus sebaceus of Jadassohn: a clinicopathologic study of a series of 155 cases.	
	論文の日本語タイトル		
診療*作*情報	*作*での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	*作*上での目次名称	BCCCQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	10770429	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Dermatopathol.	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	2	
	ページ	108 - 118	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Jaqueti G	Autonoma 大学
	その他著者 1	Requena L	同上
	その他著者 2	Sanchez Yus E	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	脂腺母斑上に悪性腫瘍は生じるか		
	研究デザイン	症例集積研究		
	セッティング	Autonoma 大学		
	対象者	155 例の脂腺母斑		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)			
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	脂腺母斑上に悪性腫瘍は生じるか	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	155 例の脂腺母斑を病理組織学的に検討したところ、悪性腫瘍は 1 例も認めなかった。			
結論	脂腺母斑に悪性腫瘍を合併することは極めてまれで、予防的切除は推奨できない。			
備考				
レビューコメント	レビューワー氏名			
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 一種の症例集積研究でエビデンス・レベルは低いものの、多数例を検討した貴重なデータである。脂腺母斑に悪性腫瘍を生じる確率は極めてまれと考えられる。		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basaloid neoplasms in nevus sebaceus.	
	論文の日本語タイトル		
診療*作*情報	*作*での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	*作*上での目次名称	BCCCQ3-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	10917159	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Cutan Pathol	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号	7	
	ページ	327 - 337	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kaddu S	Graz 大学
	その他著者 1	Schaeppi H	同上
	その他著者 2	Kerl H	同上
	その他著者 3	Soyer HP	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	脂腺母斑上に生じる腫瘍は悪性か		
	研究デザイン	症例集積研究		
	セッティング	Graz 大学		
	対象者	316 例の脂腺母斑		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	脂腺母斑の切除		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	脂腺母斑上に生じる腫瘍は悪性か	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	316 例の脂腺母斑に 24 例の basaloid 新生物を認めた。うち 22 例は毛母腫 (男性 10 例、女性 12 例)であったが、基底細胞癌はわずか 2 例 (男性 1 例、女性 1 例) (0.6%) のみであった。			
結論	脂腺母斑に合併する多くは毛母腫で、基底細胞癌は極めてまれである。			
備考				
レビューコメント	レビューワー氏名	師井 洋一		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 症例集積研究でエビデンス・レベルは低いものの、多数例を検討した貴重なデータである。脂腺母斑に悪性腫瘍を生じる確率は極めてまれと考えられる。		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sebaceous naevi: a clinicopathologic study.	
	論文の日本語タイトル		
診療*作*ラビ情報	*作*ラビでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	*作*ラビ上での日次名称	BCCCQ2-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	12224685	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Eur Acad Dermatol Venereol	
	雑誌 ID		
	巻	16	
	号	4	
	ページ	319 - 324	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Munoz-Perez MA	Virgen Macarena 病院
	その他著者 1	Garcia-Hernandez MJ	同上
	その他著者 2	Rios JJ	同上
	その他著者 3	Camacho F	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	脂腺母斑上に生じる腫瘍は悪性か		
	研究デザイン	症例集積研究		
	セッティング	Virgen Macarena 病院		
	対象者	226 例の脂腺母斑		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	脂腺母斑の切除		
	アウトカム (7外結)	エンドポイント	区分	
	1	脂腺母斑上に生じる腫瘍は悪性か	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	226 例の脂腺母斑中 5 例 (2.2%) の基底細胞癌の合併を認めた。その他多くは良性の Syringocystadenoma papilliferum と毛母腫であった。			
結論	脂腺母斑に悪性腫瘍を合併することは極めてまれで、小児期での予防的切除は推奨できない。			
備考				

レビューコメント	レビューワー氏名	師井 洋一	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 症例集積研究でエビデンス・レベルは低いものの、多数例を検討した貴重なデータである。脂腺母斑に悪性腫瘍を生じる確率は極めてまれと考えられる。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Should nevus sebaceous of Jadassohn in children be excised? A study of 757 cases, and literature review.	
	論文の日本語タイトル		
診療科/仕方の情報	お仕事の引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	お仕事の以上の日次名称	BCCCQ2-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	14501324	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Craniofac Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号	5	
	ページ	658 - 660	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003	
	著者情報	氏名	所属機関
筆頭著者		Santibanez-Gallerani A	マイアミ大学
その他著者 1		Marshall D	同上
その他著者 2		Duarte AM	同上
その他著者 3		Melnick SJ	マイアミ小児病院
その他著者 4		Thaller S	マイアミ大学
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	若年者脂腺母斑に悪性腫瘍は合併するか	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	マイアミ大学	
	対象者	16歳以下757例の脂腺母斑	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児・小児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (6)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	若年者脂腺母斑に悪性腫瘍は合併するか	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	16歳以下757例の脂腺母斑を病理学的に検討したところ基底細胞癌の合併は1例もなかった。		
結論	若年者において脂腺母斑に悪性腫瘍を合併することは極めてまれで、早期の予防的切除は不要である。		
備考			

レビューコメント	レビューワー氏名	師井 洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 16歳以下757例の脂腺母斑を病理学的に検討した。このデータを元に脂腺母斑における基底細胞癌の発症率を論じることは不可能だが、若年者において脂腺母斑に悪性腫瘍を合併することは極めてまれであることを示すデータではある。また「脂腺母斑上に生じる多くは毛母腫である」というコンセンサスの生まれる以前の報告も多数含んでおり、それゆえ小児期に基底細胞癌を生じない可能性は高いと思われる。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surface microscopy of pigmented basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	色素性基底細胞癌の表面マイクロスコープ所見	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (2)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ8-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	10926737	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	136	
	号	8	
	ページ	1012-6	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Menzies SW	Department of Surgery, University of Sydney, Australia
	その他著者 1	Westerhoff K	
	その他著者 2	Rabinovitz H	
	その他著者 3	Kopf AW	
	その他著者 4	McCarthy WH	
	その他著者 5	Katz B	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

目的	Dermoscopyを用いた色素性 BCC に対する適切な形態学的特徴を示し、より単純な診断法をつくることを目的とする。	
研究デザイン	症例対照研究	
セッティング	Sydney melanoma unit	
対象者	病変が切除された患者の大きなデータベースから、ランダムに選ばれたサンプル。142 例の pigmented BCC、142 例の invasive melanoma、142 例の benign pigmented skin lesion をランダムに 2 つの同じ大きさの training set と test set に分けた。	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
介入 (要因曝露)	診断モデルの作成	
アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分
1	Pigmented BCC の診断モデルの感度と特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	次のような診断モデルを作成した。 まず、pigment network が存在しないことと、次の 6 項目の中で 1 つないしそれ以上の項目を満たすこと。 ① large gray-blue ovoid nests ② multiple gray-blue globules ③ maple leaflike areas ④ spoke wheel areas ⑤ ulcerations ⑥ arborizing "tree like" telangiectasia 独立したテストセットにおいて、pigmented BCC の診断感度は 97%、invasive melanoma が 93%、良性色素性病変が 92%であった。	
結論	表面マイクロスコープは 3 名の病変に対して診断の有用性がある。	
備考		

レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 多数例からマイクロスコープの有用性を検討し、診断の感度・特異度を検討した論文である。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Dermatoscopic study of basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌におけるデルマトスコピー所見の検討	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (2)	
	ガイドラインでの目次名称	BCCQ3-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日皮会誌	
	雑誌 ID		
	巻	108	
	号	10	
	ページ	1249-1256	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1998		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	楊 達	埼玉医科大学
	その他著者 1	鈴木 正	
	その他著者 2	土田 哲也	
	その他著者 3	池田 重雄	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	BCC のデルマトスコピーと病理組織所見を対比し、BCC の確定診断におけるデルマトスコピーの有用性を検討した	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	埼玉医科大学病院	
	対象者	BCC 患者 56 例 97 病巣 (1994～1997 年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入 (要因曝露)	デルマトスコピー (Dermatoscope DELT 10)	
	エンドポイント (7分法)	エンドポイント	区分
	1	病理組織所見との対比	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	<ul style="list-style-type: none"> 最も特徴的な所見は、表在型 BCC で観察された淡褐色～褐色の松葉/花弁状構造であった。 丘疹型は灰青色の円形小結節構造あるいは病巣内に褐色～黒褐色または灰青色小珠および黒点小点が散在性に見られることが多く、それらが集積していることもあった。 結節型では濃淡差がある半透明の卵円形灰青色色素構造はガラスの文様内の造型模様と類似していた。 局面型では楓の葉様構造と灰青色～黒褐色の円形～類円形結節構造が多く、多くものに病変表面およびその周囲に樹枝状の小血管拡張が存在した。 腫瘍型では灰青色調の大型の結節構造が多くみられ、より大きな血管拡張もみられた。 	
	結論	上記所見は他の色素性腫瘍にはみられず、BCC の鑑別診断上有用である。	
備考			

レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀登
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 多数例の詳細な検討

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interobserver agreement on dermoscopic features of pigmented basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	色素性 BCC のダーモスコピー所見	
診療が「付」の情報	「付」の引用有無	1.有り 2.無し (2)	
	「付」の目次名称	BCCCQ3-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	12135528	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	7	
	ページ	643-5	
	ISSN ナンバー	1076-0512	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Peris K	Department of Dermatology and Internal Medicine and Public Health, University of L'Aquila
	その他著者 1	Altobelli E	
	その他著者 2	Ferrari A	
	その他著者 3	Fargnoli MC	
	その他著者 4	Piccolo D	
	その他著者 5	Esposito M	
	その他著者 6	Chimenti S	
	その他著者 7		
その他著者 8			

目的	色素性 BCC に対するダーモスコピー所見		
研究デザイン	症例対照研究		
セッティング	5人の専門家が各々診断		
対象者	56 病変の色素性 BCC		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (15)		
介入 (要因曝露)	色素性 BCC のダーモスコピー診断の一致性		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	Pigmented BCC の診断一致	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	pigment network が存在しないこととは全員が一致した (k=1)。以下の診断項目の一致結果は、 1) Very good agreement: spoke wheel areas(k=0.85) Arborizing vessels (k=0.72) 2) Good agreement: ulcerations (k=0.49) multiple gray-blue globules (k=0.41) 3) No agreement: large gray-blue ovoid nests (k=0.28) leaflike areas (k=0.26)		
結論	Ulceration, spoke wheel areas, arborizing teleangiectasia の存在が最も信頼のおけるパラメーターになり得る。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	神谷秀彦	
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 明確な診断に関するパラメーターを提供した。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Correlation of histologic subtypes of primary basal cell carcinoma and number of Mohs stages required to achieve a tumor-free plane	
	論文の日本語タイトル	原発 BCC の組織学的なサブタイプと Mohs 手術により腫瘍残存を認めなくなるまでの回数との関係	
診療が「付」の情報	「付」の引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	「付」の目次名称	BCCCQ5-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	9308552	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号	3 Pt 1	
	ページ	395-7	
	ISSN ナンバー	0190-9622	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Orengo IP	Harvard Medical School, Boston Baylor College of Medicine, Houston
	その他著者 1	Salasche SJ	Harvard Medical School, Boston University of Arizona, Tucson
	その他著者 2	Fewkes J	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 3	Khan J	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 4	Thornby J	Veterans administration Medical Center
	その他著者 5	Rubin F	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

目的	原発 BCC の組織学的なサブタイプと Mohs 手術により腫瘍残存を認めなくなるまでの回数との関係を検証した。																													
研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究																													
セッティング	米国の 3 大学と総合病院 1 施設																													
対象者	Mohs 手術を行った BCC342 例																													
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)																													
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)																													
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)																													
介入 (要因曝露)	Mohs 手術を行った症例に対して組織学的なサブタイプを同定し、各々の Mohs 手術のステージを比較検討する。																													
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分																												
	1	Mohs 手術	1.主要 2.副次 3.その他 (1)																											
	2	組織学的なサブタイプ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)																											
	3	Mohs stage	1.主要 2.副次 3.その他 (2)																											
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()																											
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()																											
主な結果	1) 腫瘍残存を認めなくなるまでに、Mohs stage が 2 回以内 254 例 (74.3%) 3 回以上 88 例 (25.7%) 2) 組織学的サブタイプと Mohs stage の関係 <table border="1"> <thead> <tr> <th>subtype</th> <th>Stage2</th> <th>Stage3+</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>nodular</td> <td>81.6%</td> <td>18.4%</td> </tr> <tr> <td>Micronodular</td> <td>62.0%</td> <td>37.0%</td> </tr> <tr> <td>Infiltrative morphea</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 3) 切片中のどこに腫瘍が残存していたか <table border="1"> <thead> <tr> <th>location</th> <th>Stage 2 (%)</th> <th>Stage 3+ (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Peripheral</td> <td>27</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>Deep</td> <td>18</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Both</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>unknown</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			subtype	Stage2	Stage3+	nodular	81.6%	18.4%	Micronodular	62.0%	37.0%	Infiltrative morphea			location	Stage 2 (%)	Stage 3+ (%)	Peripheral	27	77	Deep	18	7	Both	15	15	unknown	40	0
subtype	Stage2	Stage3+																												
nodular	81.6%	18.4%																												
Micronodular	62.0%	37.0%																												
Infiltrative morphea																														
location	Stage 2 (%)	Stage 3+ (%)																												
Peripheral	27	77																												
Deep	18	7																												
Both	15	15																												
unknown	40	0																												
結論	Aggressive なサブタイプ (infiltrative, morpheaform, micronodular,mixed)の BCC では、腫瘍残存を認めなくなるまでの Mohs stage の回数が増える。																													

	備考	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 深部より辺縁の断端に腫瘍が残存しやすい傾向にあるというデータを示している。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Histologic pattern analysis of basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における組織学的パターン分類	
診療*体系*情報	データベースでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	データベースでの目次名称	BCCQ5-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (Ⅳ)	
	Pubmed ID	2273112	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	23	
	号	6	
	ページ	1118-26	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1990	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Sexton M	Department of Pathology, M.S.Hershey Medical Center, The Pennsylvania State University
	その他著者 1	Jones D	
	その他著者 2	Maloney M	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の組織学的なパターン分類を行い、切除後の根治性について検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Pennsylvania 大学	
	対象者	BCC 1039 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	外科的切除 467 例、shave biopsy 441 例、punch biopsy 130 例、curettage 1 例。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	断端陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	外科的切除後の断端陽性率は、結節型 6.4%、表在型 3.6%、微小結節型 18.6%、浸潤型 26.5%、morpha 型 33.3%であった。組織型と断端陽性率は有意な相関あり (P<0.001)		
結論			
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 組織分類の定義がやや不明瞭。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
論文の日本語タイトル	基底細胞癌, 全国アンケートの集計と説明		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCQ5-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1995094368	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	9	
	号	1	
	ページ	80-3	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1994	
著者情報	氏名	石原和之	国立がんセンター中央病院
	筆頭著者	石原和之	国立がんセンター中央病院
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の疫学調査	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	全国の皮膚科施設へのアンケート調査	
	対象者	基底細胞癌 (1987~1991 年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	BCCの発生数と背景因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	1) 1987~1991 年の間に総数 2806 例 (男性 1470、女性 1336) が登録された。 2) 職業：戸外労働者が 394 例 (23.8%) 3) 多発例：160 例 (6.3%) 4) 発症時期：2 年前 980 例 (38.6%)、5 年以上前 859 例 (33.8%)、2~5 年 580 例 (22.8%) 5) 発症母地：母斑様 387 例 (63.3%)、熱傷痕 108 例 (17.7%)、色素性乾皮症 44 例 (7.2%)、外傷痕 31 例 (5.1%)、放射線曝露 24 例 (3.9%) 6) 初発部位：顔面 1986 例(71%)ほか露出部位が 2402 例(85.6%)、体幹部 108 例 (3.8%)。 7) 臨床症状については、色・症状・大きさ・皮下浸潤・リンパ転移・遠隔転移について各々例数が記載されている。 8) 治療に関して：手術 2721 例 (98%)、放射線 21 例、化学療法 29 例。		

	結論	日本においては手術治療が主体であり、その他の治療がほとんど行われていない。
	備考	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 日本においては手術治療が主体であり、その他の治療がほとんど行われていない事実を示す。

形式: 皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Skin cancer in Geraldton, West Australia: a survey of incidence and prevalence	
	論文の日本語タイトル	西オーストラリア Geraldton における皮膚癌。頻度と流行の調査	
診療・介入情報	引用の有無	1.有り 2.無し (1)	
	引用上の目次名称	BCCQ5-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	2329947	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Med J Aust	
	雑誌 ID		
	巻	152	
	号	8	
	ページ	399-407	
	ISSN ナンバー	0025-729X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1990	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kricker A	University of West Australia
	その他著者 1	English DR	
	その他著者 2	Randell PL	
	その他著者 3	Heenan PJ	
	その他著者 4	Clay CD	
	その他著者 5	Delaney TA	
	その他著者 6	Armstrong BK	
	その他著者 7		
その他著者 8			

一次研究の 8 項目	目的	西オーストラリアの皮膚癌の疫学的調査	
	研究デザイン	横断研究	
	セッティング	1987年11月に行われた疫学的調査	
	対象者	40~64歳の成人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	皮膚癌検診	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	臨床診断	1.主要 2.副次 3.その他 ()
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	この時点で皮膚癌と診断された人は、引き続き 2 年間の追跡調査の対象となった。 40~64 歳で非メラノーマ皮膚癌は男性で 7.0%、女性で 4.7%であった。このうち BCC の頻度は男性 6.5%、女性 4.5%であり、SCC は男性 1.2%、女性 0.3%であった。		
結論	この年代における非メラノーマ皮膚癌の予測発生率は 1560/10 万人と考えられる。うち BCC は男性 1335/10 万人、女性 817/10 万人であり、一方 SCC が男性 89/10 万人、女性 289/10 万人と推測される。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	神谷秀喜	
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) BCC、SCC の発生頻度の疫学的調査	

形式: 皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical diagnostic accuracy of basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	BCC の臨床的診断精度	
診療・介入情報	引用の有無	1.有り 2.無し (1)	
	引用上の目次名称	BCCQ5-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (III)	
	Pubmed ID	3584583	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	16	
	号	5 Pt 1	
	ページ	988-90	
	ISSN ナンバー	0190-9622	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1987	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Presser SE	Department of Dermatology and Cutaneous Surgery, Miami School of Medicine
	その他著者 1	Taylor JR	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

一次研究の 8 項目	目的	BCC の臨床的診断精度の検証																																
	研究デザイン	非ランダム化比較試験																																
	セッティング	A) 臨床診断も組織学的診断も BCC B) 臨床診断が BCC で、組織学的には BCC ではない C) 臨床診断は BCC 以外の診断で、組織学的には BCC であった DA (診断の正確さ) = A) × 100 / (A) + B) + C) IS (the index of suspicion) = A) + B) × 100 / (A) + C)																																
	対象者	マイアミ大学のレジデント 347、大学病院の皮膚科職員 39、開業医 255																																
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)																																
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)																																
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)																																
	介入 (要因曝露)	BCC の正しい診断																																
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分																															
	1	臨床診断の正確さ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)																															
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()																																
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()																																
主な結果	1) 臨床診断の正確さ <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>DA%</th> <th>IS%</th> <th>N</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レジデント</td> <td>64</td> <td>139</td> <td>347</td> </tr> <tr> <td>大学職員</td> <td>70</td> <td>130</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>開業医</td> <td>65</td> <td>133</td> <td>255</td> </tr> </tbody> </table> 2) レジデントがトレーニングを受けた後の変化 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>DA%</th> <th>IS%</th> <th>n</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 年目</td> <td>56</td> <td>165</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>2 年目</td> <td>59</td> <td>153</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>3 年目</td> <td>73</td> <td>120</td> <td>159</td> </tr> </tbody> </table>			DA%	IS%	N	レジデント	64	139	347	大学職員	70	130	39	開業医	65	133	255		DA%	IS%	n	1 年目	56	165	134	2 年目	59	153	54	3 年目	73	120	159
	DA%	IS%	N																															
レジデント	64	139	347																															
大学職員	70	130	39																															
開業医	65	133	255																															
	DA%	IS%	n																															
1 年目	56	165	134																															
2 年目	59	153	54																															
3 年目	73	120	159																															
結論	異なるグループでの臨床診断の精度を検討し、さらにレジデントもトレーニングにより精度が高められることを示した。																																	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	神谷秀喜																																
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 群間比較のデータ																																

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas	
	論文の日本語タイトル		
診療が「伴」の情報	「伴」の有無	1.有り 2.無し (1)	
	「伴」上での目次名称	B C C Q 6 - 1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I ）	
	Pubmed ID	10622664	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID	1 0	
	巻	135	
	号		
	ページ	1177-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Mantricht Medical Center
	その他著者 1	Neumann MH	同上
	その他著者 2	Schouten LJ	Comprehensive Cancer Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE, EMBASE, CANCELRLT
	研究の選択	基底細胞癌に対し、通常の切除術、Mohs手術、Cryosurgery、Electrodesiccation、放射線療法、Immunotherapy、Photodynamic therapyを施行した研究を選択。
	データ抽出	298文脈を抽出。言語、病理学的確定がつかない症例が含まれる、避及的研究、経過観察が5年未満、50例未満の報告、レビュー、重複投稿、整合性の報告の論文を除外し、18文脈が残った。
	主な結果	再発率 Mohs手術：1.1%、通常の切除：5.3%、Cryosurgery：4.3%、CurettageおよびDesiccation：13.2%、放射線療法：7.4%、Immunotherapy：21.4%
結論	治療法の再発率の違いは報告の仕方（解析の仕方）が異なるため単純にはできない。Mohs手術は大きな腫瘍、危険領域に発生したmorpho-typeの腫瘍には用いられるべきである。節節性や表在性の小さな腫瘍では、通常切除術が用いられるべきである。他の治療法は手術が適応とならない症例に用いる。Immunotherapyとphotodynamic therapyは研究段階の治療である。	
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井 洋一
	レビューワーコメント	基底細胞癌の治療法別に再発率を検討した貴重なデータ レベル I

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療が「伴」の情報	「伴」の有無	1.有り 2.無し (1)	
	「伴」上での目次名称	B C C C Q 6 - 2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I ）	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上
	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	基底細胞癌の治療法の有効性をシステマティック・レビューする
	データソース	Cochrane Database
	研究の選択	病理学的確定診断がつかない報告のみを選択
	データ抽出	報告の抽出は二人の独立したレビューアーにより行った
	主な結果	手術後と照射後の局所再発のオッズ比：0.09 (95%CI 0.01-0.67) で手術療法が優れていた（手術：1/174、照射：11/173） 手術と放射線の整合性の比較（良好 手術 87% > 照射 69%） 放射線治療後は色素沈着と毛細血管拡張が出現（65%/4年） 凍結療法は便利で安価（手術との局所再発率に差なし） オッズ比：0.23 (0.01-6.78) 放射線治療と凍結療法で1年の局所制御率は照射が有意に良好 オッズ比：14.80 (3.17-69)
結論	多くの試験はリスクの低い症例を対象とした報告であるが、手術と放射線治療が最も有効であり、再発率が低い。特に手術による局所制御率はより高い。他の治療も有用であろうが、手術との有用性の比較がなされていない。	
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井 洋一
	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度は高い。凍結療法が手術療法と局所再発率に差がないという報告のある一方、放射線治療との比較では低位に劣るとされている。整容も考えると、現時点では手術療法が最も有用と考えられる。 レベル I

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basal cell carcinoma of the face: surgery or radiotherapy? Results of a randomized study	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	BCCQ6-3	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（II）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	76	
	号	1	
	ページ	100-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Avril MF	Gustave Roussy 研究所
	その他著者 1	Auperin A	同上
	その他著者 2	Marguis A	同上
	その他著者 3	Gerbaulet A	同上
	その他著者 4	Duvillard P	同上
	その他著者 5	Benhamou E	同上
	その他著者 6	Guillaume J-C	Centre Hospitalier Louis Pasteur
	その他著者 7	Chalon R	European d'Oncologie 研究所
	その他著者 8	Petit J-Y	Parc Eurom edecine
	その他著者 9	Sancho-Garnier H	同上
その他著者 10	Prade M	同上	

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌に対し手術と放射線療法とのどちらが局所再発率が低いかを直接比較する。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Gustave Roussy 研究所	
	対象者	347症例が登録 適格基準：4cm以下、同意取得できた症例、頭頸部原発、5年以上の生存が期待できる症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入（要因曝露）	手術：2mm以上のマージンをつけて切除 放射線療法（以下のいずれかの方法） 組織内照射：65-70 Gy/5-7日間 表在X線照射(50kV)：1回 18-20 Gy で 2回（2週間あける） 表在X線照射(85-260kV)：2-4 Gy で計 60 Gy	
	エンドポイント (7項目)	エンドポイント	区分
	1	無再発生存	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	4年の再発率 (?) 手術：0.7% (95%CI: 0.1-3.9%) 放射線療法：7.5% (95%CI: 4.2-13.1%) p=0.003 整容性（良好例） 手術：87%、放射線療法：69% p<0.01		
結論	4cm以下の小さな腫瘍では手術療法をまず検討すべきである。		

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	師井 洋一
	レビュワーコメント	基底細胞癌の治療法を直接比較した貴重なデータ。 しかし、小さな腫瘍を中心とした試験であり、手術不能の部位などに本来放射線療法の意義があるにもかかわらず、この対象群での比較試験を行うこと自体が問題となるとの指摘もある。また、放射線療法の方法も統一されていないことや、現在使用されない照射法であることが問題点としてあげられる。 レベル II

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cosmetic results of cryosurgery versus surgical excision for primary uncomplicated basal cell carcinomas of the head and neck.	
	論文の日本語タイトル		
診療・介入情報	お住まいでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	お住まいでの日次名称	B C C C Q 6 - 4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ II ）	
	Pubmed ID	10940063	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号	8	
	ページ	759-64	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht 大学
	その他著者 1	Nieman FH	同上
	その他著者 2	Ideler AH	Catharina 病院
	その他著者 3	Berretty PJ	同上
	その他著者 4	Neumann HA	Maastricht 大学
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	頭頸部基底細胞癌の手術療法と凍結療法で整容的にはどちらが優れるか検討すること	
	研究デザイン	ランダム化試験	
	セッティング	Maastricht 大学	
	対象者	96 例の初発頭頸部基底細胞癌（結節型または表在型）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (15)	
	介入（要因曝露）		
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	手術療法（48 例、結節型 6 例表在型 42 例） 凍結療法（48 例、結節型 8 例表在型 40 例） 臨床的専門家は手術療法は凍結療法より整容的に優れると回答。 1年後の臨床的再発率では手術 0%、凍結 6.25%；有意差なし		
結論	一般に手術療法の方が凍結療法より整容的にすぐれている。		

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井 洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (II) 整容面に焦点を当てた研究ではあるが再発率でも手術療法が優れていることを示している。整容面では、臨床専門家（皮膚科医、皮膚科看護師、形成外科医）の評価よりも美容専門家や患者の評価（有意差なし）がより重要な印象がある。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy using topical methyl aminolevulinate vs surgery for nodular basal cell carcinoma: results of a multicenter randomized prospective trial.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での日次名称	BCC C Q 6 - 5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID	14732655	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	1	
	ページ	17-23	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rhodes LE	Royal Liverpool 大学
	その他著者 1	de Rie M	同上
	その他著者 2	Enstrom Y	同上
	その他著者 3	Groves R	同上
	その他著者 4	Morken T	同上
	その他著者 5	Goulden V	同上
	その他著者 6	Wong GA	同上
	その他著者 7	Grob JJ	同上
	その他著者 8	Varma S	同上
その他著者 9	Wolf P	同上	
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	結節型基底細胞癌に対する手術療法と PDT の有用性	
	研究デザイン	ランダム化試験	
	セッティング	多施設共同	
	対象者	未治療の結節型基底細胞癌 101 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	手術 PDT 16& ALA クリーム外用後 75J/cm2 照射 2回施行	
	エンドポイント (7項目)	エンドポイント	区分
	1	3ヶ月後の奏効率 (奏効か奏効か?他も同じ)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	12ヶ月後の奏効率	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3	12ヶ月後の整容	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	手術 49 例、PDT52 例 3ヶ月後の奏効率：手術 98% vs PDT 91% p=0.25 95%CI: -3.4%-13% 12ヶ月後の奏効率：手術 96% vs PDT 83% p=0.15 95%CI: -3.4%-13%		

	結論	再発率が高い傾向にあるものの PDT は結節型基底細胞癌に有用な治療法である。整容的には手術療法に優っている。
	備考	
レビューコメント	レビュー氏名	師井 洋一
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (II) 12ヶ月後の再発率が17%と比較的高く、根治的な治療にはなりえないが、整容的には効果が高く、手術不能例には検討する価値がある。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical excision vs Mohs' micrographic surgery for basal-cell carcinoma of the face: randomised controlled trial	
	論文の日本語タイトル		
参考文献の引用情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文上の目次名称	B C C C Q 6 - 6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID	15541449	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	364	
	号	9447?	
	ページ	1766-72	
	ISSN サンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Smeets NW	Maastricht 大学病院
	その他著者 1	Krekels GA	Catharina 病院
	その他著者 2	Ostenag JU	Maastricht 大学病院
	その他著者 3	Essers BA	Maastricht 大学病院
	その他著者 4	Dijkzen CD	Maastricht 大学病院
	その他著者 5	Nieman FH	Maastricht 大学病院
	その他著者 6	Neumann HA	Erasmus MC Rotterdam
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	顔面に発生した基底細胞癌において、通常の切除術と Mohs の手術のどちらが優れているかを比較すること	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Maastricht 大学病院	
	対象者	374 例 (408 部位) の初回治療例と、191 例 (204 部位) の再発症例 腫瘍径 1 cm 以上または、組織学的悪性度の高いもの 初回治療例 顔面の H ゾーンから発生: 89~96% 病理学的悪性: 43~62% 最大径の中央値 13.7~15.9 mm 再発例 顔面の H ゾーンから発生: 79~83% 病理学的悪性: 48~60% 最大径の中央値 17.8~19.4 mm	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	通常の切除術 局所凍瘡 (2 例にも全身凍瘡) 3 mm マージンをつけて切除し、直接縫合 断端陽性ではさらに 3 mm マージンをつけて切除 Mohs 手術 3 mm マージンをつけて切除 凍結標本を作製し、全ての断端を評価し、陰性になるまで手術を続ける	
	エンドポイント (7項目)	エンドポイント	区分
		1	局所再発率
	2	費用	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()

主な結果	初回治療例の局所再発率 (30 ヶ月) 3% (通常切除) vs. 2% (Mohs 手術) (95%CI: 2.5%-3.7%) 再発例の局所再発率 (18 ヶ月) 3% (通常切除) vs. 0% (Mohs 手術) (95%CI: 2.0%-5.0%) 以上より、統計学的有意差なし 手術にかかる経費は Mohs 手術の方が高かった
	初回治療例および再発例とも、通常切除術と Mohs 手術では局所再発率に有意差はなかった。再発例における Mohs 手術の成績は良好であったが、統計学的有意差はなかった。
レビューワーコメント	レビューワー氏名 所井 洋一 術式を比較した数少ないランダム化比較試験 Mohs 手術が通常手術に比べ 6.5%良好となると予測し立てられた試験ではあるが、その有用性は証明されなかった。 レベル II

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basal cell carcinoma of the face: surgery or radiotherapy? Results of randomized study	
	論文の日本語タイトル	顔面の基底細胞癌。手術か放射線か？	
診療*付*注情報	引*注での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	引*注*注での目次名称	BCCQ7-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID	9218740	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	76	
	号		
	ページ	100-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Avril MF	Gustave Roussy research center
	その他著者 1	Auperin A	同
	その他著者 2	Margulis A	同
	その他著者 3	Gerbaulet A	同
	その他著者 4	Duvillard P	同
	その他著者 5	Benhamou E	同
	その他著者 6	Guillaume JC	Centre Hospitalier Louis Pasteur
	その他著者 7	Petit JY	European d'Oncologie
	その他著者 8	Sancho GH	Parc Euromedecine
	その他著者 9	Prade M	同
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対して手術と放射線を行い、局所再発率を比較検討	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Gustave Roussy 研究所	
	対象者	347 症例 顔部原発 40 mm以下の症例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	手術治療: 2 mm以上のマージンで切除 放射線療法: ① 組織内照射: 65-70Gy/5-7 日 ② 表在X線照射 (50kV): 1回 18-20Gy で 2回 ③ 表在X線照射 (85-260kV): 2-4Gy で計 60Gy	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	4年目までの組織学的な再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	整容性 (患者と医師が判定)	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	4年間の再発率では、 手術: 174 例中 1 例 0.7% (95%CI: 0.1-3.9%) 放射線: 173 例中 11 例 7.5% (95%CI: 4.2-13.1%) p=0.003		
結論	4 cm以下の小腫瘍なら手術治療を検討すべきである。 整容的にも手術治療が優れている。放射線治療では毛細血管拡張、色素沈着が65%以上の患者にみられた。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (II) 小腫瘍を対象とした試験であり、治療法を直接比較した貴重な文献である。但し、4年間という短期間であり、放射線治療の方法も統一されていない。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prediction of subclinical tumor infiltration in basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における潜在的浸潤の予測	
診療*付*注情報	引*注での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	引*注*注での目次名称	BCCQ7-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	1860987	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	7	
	ページ	574-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Breuninger H	University Hospital Hautklinik
	その他著者 1	Dietz K	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の潜在的浸潤を予測し、適切な切除断端を検証する。		
	研究デザイン	症例対照研究		
	セッティング	Hautklinik 大学		
	対象者	初発例 1757 例、再発例 259 例 初回治療: nodular 916 例、morphea 230 例、superficial 258 例、その他 353 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	水平方向と垂直方向の腫瘍径を測定したうえで、2-6mmの margin をとって切除した。		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	切除断端陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果		腫瘍径 < 10mm	2mmの切除断端	5mmの切除断端
		腫瘍径 > 20mm	30%	5%
		結節型	60%	25%
		Morphea 型	35%	10%
		結節型腫瘍径 < 10mm	50%	20%
		> 20mm	30%	5%
		Morphea 型 < 10mm	60%	25%
		> 20mm	40%	10%
			65%	35%
結論	BCC における潜在的な腫瘍の浸潤に関しては、腫瘍径とその形態に依存する。			

	備考	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 切除術を行ううえでの参考資料となり得る。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical margins for Basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する手術マージンの検討	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ7-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（Ⅴ）	
	Pubmed ID	3813602	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	123	
	号	3	
	ページ	340-4	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原文言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1987		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Wolf DJ	Department of Dermatology, University of Pittsburgh School of Medicine
	その他著者 1	Zitelli JA	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌に対する手術マージンの検討		
	研究デザイン	症例集積研究		
	セッティング	Pittsburgh 大学		
	対象者	初回治療の BCC 117 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	肉眼的腫瘍辺縁 2 mm 際してマーキングをして、Mohs 手術を施行。組織学的な subclinical invasion を計測した。		
	アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	Subclinical extension	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	主な結果	病変の拡がり と 症例数		
Subclinical extension(mm)		症例数	%	
1		32	27	
2		82	70	
結論	直径 2cm 以下の腫瘍なら肉眼的に最低 4 mm の手術マージンをとれば、腫瘍の 95% が完全切除できる。			
	備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅴ） 水平方向のみの検討であり、垂直方向を考慮していないことは著者も認めている。		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Multivariate risk score for recurrence of cutaneous basal cell carcinomas	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における再発リスクの多変量解析	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	BCCCQ7-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	6847215	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	119	
	号	5	
	ページ	373-7	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0003-987X eISSN: 1538-3652	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1983	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dubin N	New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf AW	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の再発に関わる危険因子を多変量解析で検証した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	New York 大学	
	対象者	BCC 1417 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	Curettage & electrodesiccation(C&E)、放射線、外科的切除の 3 群に分け、各々年齢、性、前治療、腫瘍径、囊腫状変化、部位を説明変数とし、再発を目的変数として多重ロジスティックモデルを作成。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	治療後 5 年目で全体の再発率は 18.3%であり、C&E26.0%、放射線 9.7%、外科的切除が 9.3%であった。 ロジスティック解析で有意であった因子は C&E: 腫瘍径、部位、前治療、年齢 放射線: 腫瘍径、部位 (鼻)、性別 (男) 外科的切除: 腫瘍径、部位		
結論	いずれの治療法でも腫瘍径と部位が有意な再発危険因子であった。		
備考			

レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 治療法別に危険因子を詳細に検討している。

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 3: Surgical excision	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート3：外科的切除	
診療科/学会情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文上の目次名称	BCCQ7-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	1592998	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	5	
	ページ	471-76	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1992		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf AW	
	その他著者 2	Bart R	
	その他著者 3	Grin C	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	外科的切除後の BCC の再発に関わる因子を検証した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	New York 大学	
	対象者	初回治療 BCC 588 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	外科的切除	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	治療後 5年目で全体の再発率は 4.8%。多変量解析では、部位（頭部）と性別（男）が有意な再発予測因子であった。また腫瘍径 5 mm以下では再発率 3.2%、6-9mmでは 8%、10 mm以上は 9%であった。		
結論	外科的切除は頭部も含めて有用な手段である。但し頭部は 5 mm以下の症例の治癒率が高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 長期フォローがされており、再発危険因子のデータとしても信頼が置ける。	

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Scalpel excision of basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の外科的切除	
診療科/学会情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文上の目次名称	BCCQ7-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	646395	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	114	
	号	5	
	ページ	739-42	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1978		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bart RS	New York University Medical School
	その他著者 1	Schrager D	
	その他著者 2	Kopf AW	
	その他著者 3	Bromberg J	
	その他著者 4	Dubin N	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌の手術治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	New York 大学	
	対象者	1955~1967年の間に受診した BCC 患者 446 例から得た 468 検体	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	外科的切除	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	① 累積 5年再発率は 6.8%であった。特に再発が多かった部位は、陰窩(13.0%)、被髪部(10.5%)、鼻と鼻の周囲(7.1%)であった。 ② 再発に対して再度の治療を行って、その後の追跡調査では 99.1% (464/468) において治癒が得られた。 ③ 2 回目の手術後において、少なくとも 70%が整容面において十分満足が得られている。最も多い副次的作用は瘢痕であった。		
結論	病変の大きさが増すと瘢痕を形成する頻度が高くなる。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 手術における副次的作用を検討している。	

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Mohs surgery is the treatment of choice for recurrent (previously treated) basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	再発しない過去に治療された BCC に対する Mohs 手術について	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドラインでの目次名称	BCCCQ7-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID	2925988	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	4	
	ページ	424-31	
	ISSN ナンバー	0148-0812	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1989	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Rowe DE	Texas Health Science Center
その他著者 1		Carroll RJ	Texas A and M university
その他著者 2		Day CL Jr	Texas Health Science Center
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			

レビュー研究の 6 項目	目的	再発しない過去に治療歴のある BCC に対する各治療法の検討
	データソース	不明
	研究の選択	不明
	データ抽出	1945 年以降の報告例の中で、外科的切除、放射線、クライオサージェリー、curettage & electrodesiccation、Mohs 手術を行った患者を抽出した。
レビューワーコメント	主な結果	1) Mohs 手術を施行した症例の 5 年再発率 5.6% 2) Mohs 手術以外の方法を行った症例では 19.9% (およそ 4 倍) ①外科的切除 17.4% ②C&E40.0% ③放射線 9.8% ④クライオ手術のデータはなし (5 年以下なら 13.0% というデータがある)
	結論	手術の適応ではなく、病変が小さければ放射線が適応と考えられる。Curettage & electrodesiccation は再発腫瘍には適応がなく、原発巣に限って行われるべきである。Mohs 手術が再発した BCC の治療選択のひとつとして有用である。
	備考	
	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (1) 再発した BCC の論文を網羅しており、そこから導かれた治療選択に関する結論は有用である。厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されており、それに準ずるものと評価した。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Microscopically controlled excision of malignant neoplasms on and around eyelids followed by immediate surgical reconstruction	
	論文の日本語タイトル	Mohs 法による眼瞼周囲皮膚癌切除と引き続き再建を行う方法	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	BCCCQ7-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	618935	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号	1	
	ページ	55-62	
	ISSN ナンバー	0148-0812	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1978	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Ceiley RI	University of Iowa Hospital
その他著者 1		Anderson RL	
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			

一次研究の 8 項目	目的	Mohs 法による眼瞼周囲皮膚癌切除と引き続き再建を行う方法についての検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Iowa 大学	
	対象者	47 例の眼瞼に生じた再発性、浸潤傾向のあるサイズの大きい皮膚癌 (BCC は 44 例) に対して Mohs 法による切除治療を行い、当日ないし翌日に再建も行った症例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	Mohs 手術による腫瘍の切除および引き続き行う再建	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	MMS の治癒率
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
レビューワーコメント	主な結果	44 例の BCC、2 例の SCC、1 例のメラノーマにこの治療方法を適応させた。24 例は下眼瞼、15 例は上眼瞼、12 例は内眼角部、8 例は外眼角部の症例である。38 例はその日のうちに再建し、5 例は自然の上皮化を待った。6 例に関しては後に眼窩内容除去術を行っており、うち 3 例はこの場合も MMS で組織学的検査を追加していた。この方法の利点は高い治癒率、組織の温存、手術時間の短縮、専門家の能力を最大限利用できることにある。	
	備考		
	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 主に眼瞼部に限局した症例の提示であり、施行例の総合的評価は行っていない。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical excision vs Mohs' micrographic surgery for basal-cell carcinoma of the face: randomized controlled trial	
	論文の日本語タイトル	顔面の BCC に対する外科的切除と Mohs 法のランダム化比較試験	
診療科目等の情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ7-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID	15541449	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	364	
	号	9447	
	ページ	1766-72	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0140-6736 cISSN: 1474-547X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Smeets NW	University Hospital Maastricht
	その他著者 1	Krekels GA	Catharina Hospital
	その他著者 2	Ostertag JU	University Hospital Maastricht
	その他著者 3	Essers BA	University Hospital Maastricht
	その他著者 4	Dirksen CD	University Hospital Maastricht
	その他著者 5	Nieman FH	University Hospital Maastricht
	その他著者 6	Neumann HA	Erasmus MC Rotterdam
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	顔面の BCC に対する外科的切除と Mohs 法の有用性の比較検証	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Maastricht 大学	
	対象者	顔面の BCC のうち、腫瘍径 1cm 以上、組織学的悪性度が高い例 初回治療例 374 例 (408 部位)、再発症例 191 例 (204 部位)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	1) 通常の外科的切除: 3mm 離して切除し、断端陽性ならさらに 3mm の追加切除。 2) Mohs 手術: 3mm のマージンで切除し、凍結切片で断端がすべて陰性になるまで手技を繰り返す。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3	手術費用	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (II) 術式ごとの再発率を検討した数少ないランダム化比較試験。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Morpheaform basal-cell epitheliomas A study of subclinical extensions in a series of 51 cases	
	論文の日本語タイトル	Morphea 型基底細胞癌 51 例における潜在的病変の拡がりの検討	
診療科目等の情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ7-10	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	7240543	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	5	
	ページ	387-94	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1981		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Salashe S	University of Tennessee Center for Health Science
	その他著者 1	Amonette R	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	Morphea 型基底細胞癌における潜在的病変の拡がりを検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Tennessee 大学	
	対象者	Morphea 型 BCC 51 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	組織学的腫瘍径 (Mohs 手術で得た検体) と臨床的腫瘍径 (実際の計測値) との差を潜在的病変の拡がりとして算出した。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	Subclinical extension(mm)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	完全切除に要した Mohs ステージ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) Morphea type の病変の拡がりを詳細に検討している。	